

姫路市地域公共交通会議陸運分科会

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

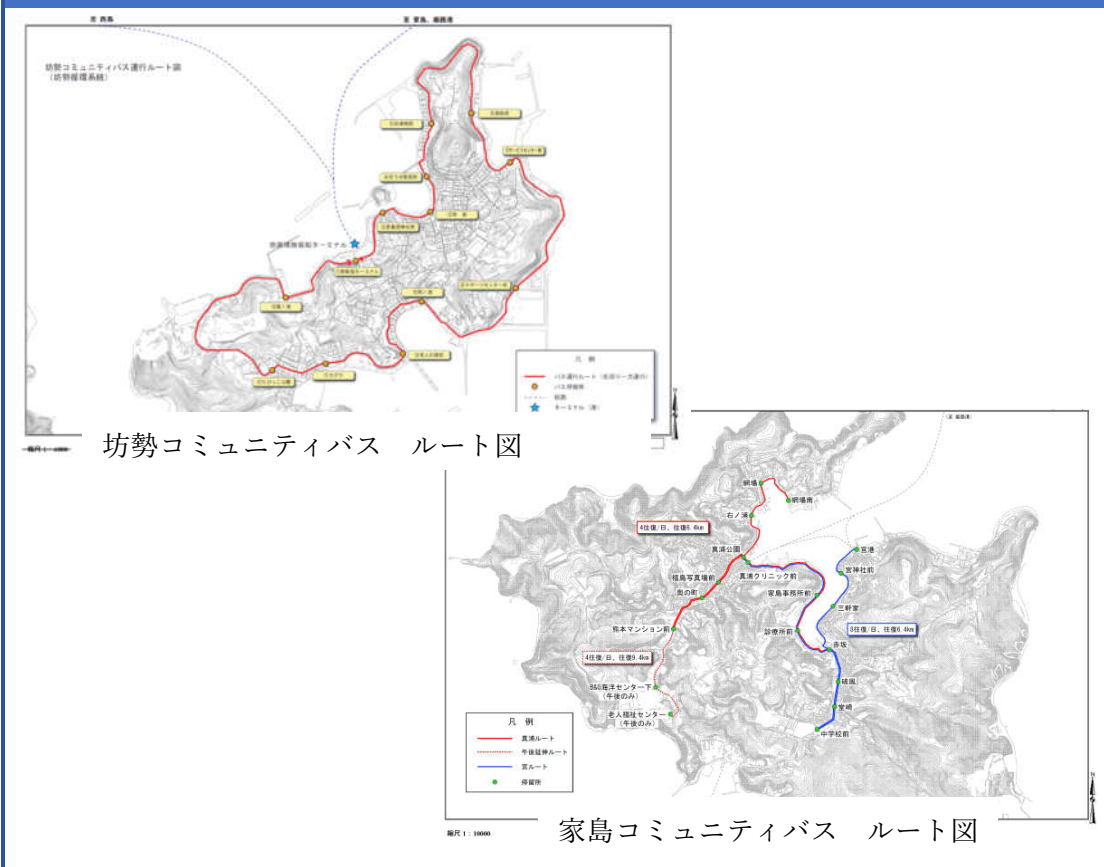
○地域特性

- ・家島本島及び坊勢島では、バス及びタクシー事業者が無く、公共交通空白地
- ・島内の移動手段は、徒歩や二輪が大半

○基本方針

- ・高齢化の進行や港から各集落までの交通手段導入を求める声が高まり、地域住民の移動交通手段確保と地域の活性化に資するコミュニティバス(市町村運営有償運送(交通空白輸送))を導入し、継続運行中である。

公共交通ネットワーク図



2. 計画の達成状況の評価に関する事項

○事業の目標値

- (坊勢コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：25人
- (家島コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：50人

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

・コミュニティバス概要		
	坊勢コミュニティバス	家島コミュニティバス
事業手法	市町村運営有償運送(交通空白輸送)	市町村運営有償運送(交通空白輸送)
運行の担い手	坊勢区会(地元自治会)	宮区会(地元自治会)
ルート	島内巡回ルート	宮地区・真浦地区を中心とした2ルート ※真浦ルートのみ、午後は一部延伸
運行日・便数	月～水・金曜日は11便 木・土曜日は6便	月～金曜日：16便 (6～9月の土曜日：6便)

運行開始後も、利用者・地元自治会の意見を踏まえ、ニーズの変化や定期船ダイヤ改正に対応すべく随時運行計画を見直している。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
坊勢コミュニティバス	姫路市	H24.10.1～	フ	運行系統名：坊勢循環 坊勢島内の「旅客船ターミナル～西ノ浦～旅客船ターミナル」を巡回運行
家島コミュニティバス	姫路市	H27.4.1～	フ	運行系統名：真浦線1、真浦線2、宮線 家島島内の真浦地区を中心に真浦線(真浦線1は午前便、真浦線2は午後便)、宮地区を中心に宮線を運行

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
再策：再編計画策定事業、再推：再編計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

4. 具体的取組に対する評価

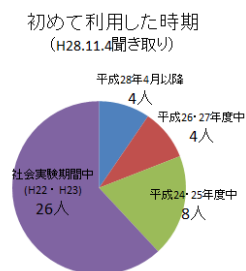
【坊勢コミュニティバス】

目標 25 人/日に対し、実績 33.0 人/日であり、目標を達成できた

【家島コミュニティバス】

目標 50 人/日に対し、実績 50.4 人/日であり、目標を達成できた

- ・家島コミュニティバス利用者アンケート調査では、1 日の利用者 42 名中 16 名（38%）が、平成 24 年 4 月の本格運行移行後に利用を開始した方であり、新たな利用者を獲得できていることを確認した。



5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
今後も利用者ニーズの把握に努め、利用促進活動を継続していく必要がある。	利用者アンケートや運転員連絡会議等を通じて、利用者ニーズの把握に努めつつ、新たな利用者の獲得に向け、利用促進活動にも取り組んでいく。

姫路市地域公共交通会議陸運分科会

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>（坊勢地域）</p> <p>事業実施の適切性及び目標効果の達成状況について自己評価通り評価できる。利用者ニーズについて、引き続き、ダイヤ等に反映していただきたい。</p>	<p>運転員及び運行管理者と連絡を密にするとともに、職員が乗車して利用者とコミュニケーションを取るなどしている。</p>	<p>地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。</p> <p>平成 30 年秋に地域内の医院が移転することにより利用者ニーズが大きく変化することが予想されるため、地域とともにダイヤ改正の検討を進めている。</p>
<p>（家島地域）</p> <p>事業実施の適切性について、自己評価通り評価できる。目標・効果の達成状況については、島内の人口減少など原因はあるが、他の代替交通がない中、当系統を維持することが大事と考えます。今後も地域の意見を聞いていただき、利用促進等に取り組んでいただきたい。</p>	<p>運転員及び運行管理者と連絡を密にするとともに、職員が乗車して利用者とコミュニケーションを取るなどしている。</p> <p>また、利用者アンケートを実施し、利用実態を把握した。</p>	<p>地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。</p>

2. アピールポイント、特に工夫した点など

- ・地域との協働により、運行計画を立案し、運行についても行政と自治会で連携して実施している。
- ・自治会が運行を担い、地域住民が運転しているため、利用者との距離が近く、地域に密着した運行を行っている。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月25日

協議会名: 姫路市地域公共交通会議陸運分科会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
姫路市	<p>【坊勢地域】 運行系統名:坊勢循環 坊勢島内の「旅客船ターミナル～西ノ浦～旅客船ターミナル」を巡回運行 ミニバンサイズ車両1台で運行</p>	<p>運転員及び運行管理者と連絡を密にするとともに、職員が実際に乗車して利用者とコミュニケーションを取るなどしている。</p>	<p>A 計画どおり事業が適切に実施できた。</p>	<p>A 目標25人/日に対し、実績33.0人/日であった。</p>	<p>地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 平成30年秋に地域内の医院が移転することにより利用者ニーズが大きく変化することが予想されるため、地域とともにダイヤ改正の検討を進めている。</p>
姫路市	<p>【家島地域】 運行系統名:真浦線1、真浦線2、宮線 家島島内の真浦地区を中心に真浦線(真浦線1は午前便、真浦線2は午後便)、宮地区を中心に宮線を運行。 真浦線及び宮線それぞれをミニバンサイズ車両各1台で運行</p>	<p>運転員及び運行管理者と連絡を密にするとともに、職員が実際に乗車して利用者とコミュニケーションを取るなどしている。 利用者アンケート調査を実施し、利用実態を把握した(H28.11.4)</p>	<p>A 計画どおり事業が適切に実施できた。</p>	<p>A 目標50人/日に対し、実績50.4人/日であった。</p>	<p>地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月25日

協議会名:	姫路市地域公共交通会議陸運分科会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>離島である家島町においては、これまでバス・タクシー等の交通事業者の参入がなく、全くの公共交通空白地域である。また、道路事情が非常に悪いため自動車保有率は低く、島内の移動は徒歩や二輪が大半を占めている。</p> <p>本地域においても高齢化や地理的要因のため、港から各集落までの公共交通導入を求める声が高まり、定期船発着場である旅客船ターミナルを起点とした地域内フィーダー系統として「坊勢コミュニティバス(市町村運営有償運送(交通空白輸送))」及び「家島コミュニティバス(市町村運営有償運送(交通空白輸送))」を導入し、運行中である。</p> <p>地域と行政の協働で運行計画の立案・コミュニティバス運行を行っており、今後も地域と行政が連携し「地域の足」として継続的に運行を続けたい。</p>